

令和2年度 小林市立小林小学校 関係者評価書

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	家庭・地域との協働により、一人一人の子供の実態を把握・共有し、個に応じた支援を 行いながら知恵・声・汗を出す姿を見届けることを通して、 自ら行動できる（学び、思いやり、きたえる）子供の育成を目指す。 －みんなで一緒に成長しよう「学びいっぱい 思いやりいっ・ぱい 元気いっぱい」－				
項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知育	<p>■目標 自ら学ぶ子供の育成 －学びいっぱい－</p> <p>一人一人が地域や社会に関心をもち、課題について、他と協力ながら主体的に考え、判断し、表現することができる子供</p> <p>■手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域や社会に関心をもたせる取組 分かる・できる授業の推進 （「主体的・対話的で深い学び」の場の確保による学力向上 I C T活用及び補充学習の充実 投影スクリーン・デジタル教科書・タブレット・実物投影機等の常時活用 キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度で学びたい度は向上しているが、まだ、目標の80%には届いていない。児童が主体的に学ぼうとする態度の育成をするために、教材や活動内容の工夫が必要だと感じた。 ・ 地域のことや自分の夢に目を向けるような取組の結果、昨年度よりも学びたい度が増えたのではないか。 ・ 一人1公開授業を通して、互いの授業から学ぶことができた。実施時期が2学期前半に集中したので、授業を見る機会が少なくなる職員もいた。来年度は、年間を通して一人1公開授業を計画し、より多くの授業を参観できるようにしたい。 ・ 読書は、制限された中でも充実させることができた。ただ、「読書が進まない子」への働きかけを今後も工夫して継続する必要がある。 ・ web 単元活用や個別指導の充実を図ることにより、基礎学力の定着をめざしたい。 ・ どの学級でもタブレットを活用して学べる子供達を育てるために、研修を充実させる。タブレットを更にとって、どんなことができるのかを知るとともに、活用例を紹介し合うようにする。 	2.5	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度は、コロナウィルス感染予防のため、教育活動、学校行事、その他諸々において制限を受けた1年間であり、先生方も大変な御苦労があったことと思います。そういう状況の中で児童の学びたい度は向上していることは、児童や先生方の努力の結果だと思えます。 ・ 知育においては、主体的に考え、学ぶことが重要になりますが、そのためにはまず子ども達がいかに自分に自信を持つかが重要と思われれます。子ども達がいかに寄り添えるか、どれだけ自信を持たせることが出来るか、子ども達への働きかけを工夫して欲しいと思えます。 ・ 読解力・思考力が身につく指導法の工夫が更に必要ではないかと考えます。児童たちには読書や新聞を読むことを推奨することも1つの対策ではないかと思うのですが。 ・ 基礎学力を定着させるために地域の良さを生かして、少人数学級指導の効果的活用、タブレットを活用して学習に生かす活用が、これからの学校教育に求められていくので、先生方の研修を充実させていってほしい。タブレットをもっている児童とそうでない児童とかの格差が生じないように配慮をお願いします。 ・ 自分の育ったふるさとを愛し、ふるさとに自信と誇りをもてる児童の育成を目指して、地域資源・地域の多様な人材をこれまで以上に発掘・活用してふるさと教育（こすもす科等）を推進していただきたいです。地域のことや自分の夢について考える児童が増えたことは取組のひとつの成果ではないかと思えます。
徳育	<p>■目標 自ら思いやる子供の育成 －思いやりいっぱい－</p> <p>一人一人が相手意識をもち、主体的に思いやりのある適切な言動をすることで、よりよい人間関係を築くことができる子供</p> <p>■手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の定着 自他の人権意識の向上 問題行動（いじめ、不登校、非行等）の未然防止と早期発見【見逃さない対応】 特別支援教育の理念に基づく対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶、廊下歩行の指導など、4月初めから全校で徹底していく必要がある。お手本となるものを用意したり、委員会を中心として良い姿を見せていくなど、子供たちが主体的に動ける機会も作りたい。 挨拶に関しては、家庭・地域とも連携していく必要がある。 ・ 言葉づかいについては、今後も継続してあたたかい言葉かけができるようにする。 ・ 子供に登校しぶりの前兆が見えた時、早期の対応を組織的に進める必要がある。また、家庭だけでなく各関係機関とも連携しながら不登校が減るようにしたい。 ・ 些細な事案であっても、被害児童が苦痛を受けたと感じる場合は「いじめ」と認知し、複数の職員で対応し、指導するようにしている。いじめとして認知することで、指導の場がふえ、心に訴える指導ができている。 ・ 非行がおきないように、情報の共有をさらに密にする必要がある。 	2.6	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳育についても、知育と同じように子ども達がいかに寄り添えるかが大切だと思います。まずは、挨拶からだとは思いますが。家庭・地域と連携していく必要はありますが、学校内は学校内としてしっかり習慣づけることが出来れば、それが家庭・地域にも良い影響を与えるのではないのでしょうか。家庭との連携が難しい況もあると思えます。粘り強く、継続した働きかけをして欲しいと思えます。 ・ 児童から元気よく挨拶をしてくれる事はあまりなく、こちらから大声で挨拶をすると応えてくれるという印象があります。PTA の生活育成委員でも課題の1つになっていたようです。家庭・地域・学校と連携していく必要があります。 ・ 自分達の子どもの頃に比べると「立腰」がよくできています。学年に応じてそれぞれの発達段階に適した指導を続けていってほしいです。 ・ 例年よりも不登校・いじめの中味も違ったのではないのでしょうか。子ども達の心の声に対しての配慮が感じられますので、これからも続けて頂きたいです。不登校、登校しぶり、いじめの解消にはこれからも特に努力していただきたいです。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体育	<p>■目標 自らきたえる子供の育成 －元気いっぱい I－ 一人一人が健康な生活習慣を身に付け、主体的に最後までやり抜くことで心と体をたくましく成長させることができる子供</p> <p>■手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体力向上の推進 2 最後までやり抜く子の育成 3 立腰指導、正しい鉛筆握りの徹底 4 安全・防災意識を高める指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度は、今年度作成した「体力向上プラン」をもとに、授業時や昼休みなどで活用できる事例集を作成し、常時体力向上に努めるような取組を行っていききたい。 ・ 6年生を中心にして、朝のボランティア活動に熱心に取り組む姿が見られた。縦割り清掃時も、高学年児童が中心となって、時間いっぱい清掃に取り組んでいた。よい雰囲気のできているので、来年度も継続していききたい。 ・ 正しい鉛筆握りについては、はしの持ち方とつながる部分も多いため、給食時間の指導や、通信において連携して取り組むことができると効果的ではないかと考える。 ・ 「命」に関する取組については、コロナ対策を行いながら、できる取組を進めてきた。 	2.7	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小林市の方針である「健康都市」をめざすためにも、また、たくましく生きていくためにも基礎体力は必要です。規則正しい生活を心がけることで健康な体づくりになります。早寝早起きの習慣を身に付けることが一番の近道のような気がします。 ・ 違う学年の人同士が一緒になる縦割り清掃はとても良いことだと思います。ぜひ継続して行ってほしいです。 ・ 6年生のボランティア活動の姿を見ていた5年生が新年度は頑張ってくれると思います。良い伝統としても今後つながってほしいです。 ・ 学校生活では外遊びを楽しんでいるようだが、帰宅後、休日はゲームやネットが占める割合が多いと思います。休日、子供達が集まってゲームをしている姿をよく見るので、保護者の声かけがもっと必要だと思います。 ・ この1年間、交通事故、水の事故がなかったことが、命を大切に作る点で良かったと思います。災害は、いつ、どのように起こるかわからないので、自分の命を守る行動ができるように子どものうちから考えることは 必要です。
食育	<p>■目標 望ましい食習慣を身に付けた子供の育成 －元気いっぱい II－ 一人一人が健康な生活習慣を身に付け、主体的に最後までやり抜くことで心と体をたくましく成長させることができる子供</p> <p>■手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家庭・地域と連携した食育指導の推進 2 一人一人に応じた給食指導 3 健康な歯の堅持 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度肥満の児童への定期的な声かけ、身体測定を続けることで、肥満度の維持改善に一定の効果があると感じたので、今後も続けたい。 ・ 家庭と連携した食育については、学校で学んだことが家庭へとつながる食育授業を進める。 ・ 小林小の残食は2%以下が続いており、かなり少ないと思う。今後も自力で食べきれる量を知り、時間内に食べる指導を続けていく。 ・ むし歯治療率については、何回か保健室からプリントで治療のすすめが出たので、昨年より治療率が伸びたように思う。 ・ コロナウィルス対策下の中でできることはどの項目においても取り組んでいた。昨年度よりも数値が改善向上されている。 	3.1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育については、体育と同じように規則正しい生活を心がけることが重要と考えます。高度肥満傾向児童やむし歯の治療については家庭の事情があると思われませんが、学校側が連携して、粘り強く継続した働きかけをして欲しいと思います。 ・ 地産地消にもっと力を入れることはできないでしょうか。 ・ はしの持ち方とむし歯の治療は、もっと家庭に責任を持たせても良いのではないのでしょうか。 ・ メディア等を中心にフードロスのことが言われているが、小林小の残食が2%以下であることは、学校・家庭の食育活動の成果であると思います。 ・ 歯は、一生にかけて 大事なものなので、家での歯みがき、むし歯の治療については親が行動するかしないかもあるので、家庭への啓発を継続してほしいです。保護者の意識次第だと思います。
次年度の方向性についての 校長所見	全体	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページや保護者への学校からの積極的な情報発信、及び誠意ある対応による信頼関係の強化を図る。 ○ 「褒める、認める」を基本とした指導を重視し、「自分のことが好きと思える子供」の育成を進める。 			
	知育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学び態度をさらに向上させる。特に、地域への関心を高めるために、「ひと もの こと」についての学習を、地域人材を活用することで進めたい。 ○ 基礎学力の実態把握を行い、定着や習熟の機会を設定することで、学習の基盤となる能力を高める。 ○ 年間を通して一人1公開授業を計画し、より多くの授業を参観できるようにし、互いの授業から学び合えるようにする。 ○ ICTの活用推進については、タブレット活用研修会を複数回設定するとともに、「情報化推進チーム」を作り、活用を推進する。 			
	徳育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的生活習慣のうち、「挨拶ができる児童に育つ」ように、職員、高学年児童が手本を示すとともに、児童会活動やPTA活動とも連携しながら、指導の徹底を図る。 ○ 些細な事案であっても、被害児童が苦痛を受けたと感じる場合は「いじめ」と認知し、組織的に対応し、指導にあたる。 ○ 不登校傾向の児童が学校に来やすくなる環境作りや家庭への働きかけを進める。また、登校しぶりの前兆が見えた時、早期の対応を組織的に進める。さらに、家庭、及び各関係機関とも連携しながら対応する。 ○ 特別支援教育の理念に基づいて、一人一人の実態を全職員で共通理解しながら指導を進め、個に寄り添う丁寧な指導を行う。 			
	体育・食育	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度作成した「体力向上プラン」をもとに、授業や、日常生活、昼休みなどで活用できる事例集を作成し、常時体力向上に努める。 ○ 「正しい鉛筆握り」については、低学年を中心にして三角軸の鉛筆も活用し、「正しい鉛筆握り」の定着を図る。 ○ 箸の持ち方の指導や残食の指導、肥満傾向児童への指導、及びむし歯治療のすすめ、等については、栄養職員や養護教諭と学級担任とが連携して指導を行う。 			